

新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和5年度
(2023)

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことができないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成4（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成26年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、令和5（2023）年度に新潟県の調整を経て実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国土交通省事業関連の6遺跡、18,332㎡を実施しました。このうち、縄文時代後期の大規模集落である村上市上野遺跡（国道7号朝日温海道路）では、多数の平地建物や掘立柱建物が検出されたほか、焼人骨集積土坑から出土した人骨の分析を進めました。南魚沼市金屋遺跡（国道253号八箇峠道路）では平安時代の柱穴から勾玉が、六日町藤塚遺跡（国道17号六日町バイパス・国道253号八箇峠道路）からは古墳時代の陶器窯跡群産の可能性のある須恵器甕が出土しました。上越市下割遺跡（国道253号上越三和道路）では、地下4mから縄文時代後期の竪穴建物が見つかりました。

整理作業は、柏崎市丘江遺跡（国道8号柏崎バイパス）の整理を行いました。また、阿賀野市山口遺跡ほか（国道49号阿賀野バイパス）、長岡市ササラ西遺跡（川口待避所）、南魚沼市金屋遺跡（国道253号八箇峠道路）の発掘調査報告書を刊行しました。これらの情報は、年3回発行の広報紙『埋文にいがた』やホームページで随時公表したほか、4遺跡で現地説明会等を開催し、延べ662人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、企画展として「発掘された名前」、「発掘！新潟の遺跡2023」を開催したほか、新潟県埋蔵文化財センター講演会などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援やキッズ考古学教室では、児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保存の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に、日ごろ当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し、厚くお礼を申し上げますとともに、今後のさらなる事業の推進に向け、一層の御支援をお願いいたします。

令和6年8月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長 関根 慶一

目 次

I (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1	目的及び事業	1
2	設立年月日	1
3	基本財産	1
4	組 織	1
5	役員及び職員	2
6	理事会・評議員会	2
7	予算及び決算	3
8	主な行事	4

II 発掘調査・整理事業

1	本発掘調査実績一覧	6
2	本発掘調査遺跡位置図	6
3	本発掘調査	6
	上野遺跡(第7次) (国道7号朝日温海道路)	7
	余川中道遺跡(第6次) (国道17号六日町バイパス)	9
	六日町藤塚遺跡(第7次) (国道17号六日町バイパス)	11
	六日町藤塚遺跡(第8次) (国道253号八箇峠道路)	11
	金屋遺跡(第7次) (国道253号八箇峠道路)	13
	下割遺跡(第11次) (国道253号上越三和道路)	15
4	整理・報告作業	17
5	保存処理	18

III 普及啓発事業

1	現地説明会等	19
2	企画展・常設展	19
3	発掘調査報告会・講演会	19
4	校外学習・体験イベント等	20
5	広 報	21
6	入館者数等	21
7	出土品の管理	22
8	図 書	22

IV 市町村及び関係機関等への協力

23

I (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1 目的及び事業

県内における埋蔵文化財の調査及び研究、保護思想の普及、啓発などを行い、本県文化の向上に寄与することを目的として次の事業を行う。

- ア 埋蔵文化財の調査及び研究
- イ 埋蔵文化財保護思想の普及
- ウ 埋蔵文化財調査技術の指導及び研修
- エ 出土遺物の保存処理
- オ 埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び刊行

2 設立年月日

平成4年3月31日

3 基本財産

3,000万円(県の出捐)

4 組 織

(令和5年4月1日現在)

評 議 員 会

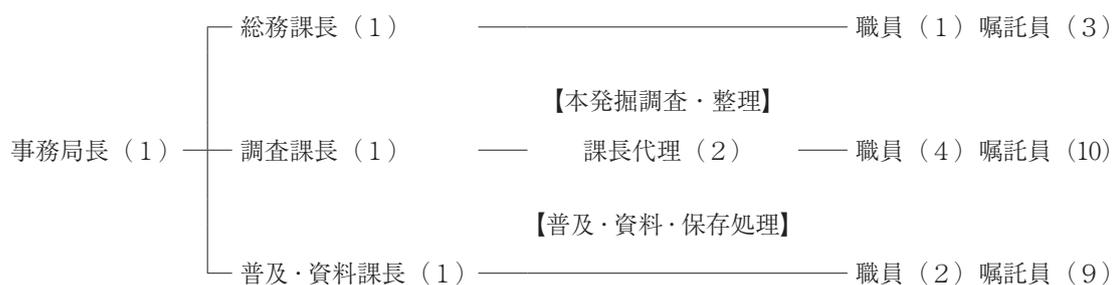
評議員(4)

理 事 会

理事長(1) ————— 専務理事(1) ————— 理事(2)

監事(2)

事 務 局 (職員総数35)



5 役員及び職員

(令和5年4月1日現在)

役員

職名	氏名	備考	職名	氏名	備考
理事長	野上 文敏	県観光文化スポーツ部長	評議員	小林 昌二	新潟大学名誉教授
専務理事	松田 英世	事業団事務局長	〃	寺崎 裕助	(前) 県考古学会会長
理事	笠原 英一	(元) ㈱BSNウェブ顧問	〃	橋本 博文	新潟大学名誉教授
〃	廣野 耕造	新潟市文化スポーツ部歴史文化課長補佐	〃	青木 長務	県土木部道路建設課長
監事	豊田 智	税理士			
〃	山田 修	(元) 県監査委員			

職員

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
事務局長	松田 英世	【整理】 課長代理	土橋由理子	普及・資料課長	佐藤 友子
総務課長	高橋 知浩	専門調査員	飯坂 盛泰	【普及・資料・保存】 班 長	上田 悟司
班 長	伊藤 雅美	嘱託員	10名	〃	小川 貴史
嘱託員	3名			嘱託員	9名
調査課長	荒川 隆史				
【本発掘調査】 課長代理	石川 智紀				
専門調査員	春日 真実				
〃	山崎 忠良				
〃	加藤 学				

6 理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
臨時理事会 (決議の省略)	令和5年4月1日	1 理事長の選定
第1回定例理事会	令和5年5月30日	1 令和4年度事業報告 2 令和4年度決算 3 事業団個人情報保護規程の廃止 4 定時評議員会の開催
定時評議員会	令和5年6月19日	1 令和4年度事業報告 2 令和4年度決算
第2回定例理事会	令和6年3月22日	1 令和5年度事業計画の一部変更 2 令和5年度収支補正予算 3 令和6年度事業計画 4 令和6年度収支予算 5 事業団理事長の専決処分に関する規程制定 6 事業団諸規程の一部改正 7 役員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 8 臨時評議員会の招集(書面開催)の決定 9 評議員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦
臨時評議員会 (決議の省略)	令和6年3月26日	1 役員の選任

7 予算及び決算

令和5年度収支決算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決 算 額 b	増 減 (b-a)	備 考
大	中					
基本財産運用収入	基本財産利息収入	1,000	1,000	599	-401	
事業収入	発掘調査受託収入	1,096,929,000	1,107,454,000	1,107,454,390	390	
	センター管理運営受託収入	22,890,000	21,838,000	21,838,000	0	
	(センター管理業務受託収入)	11,243,000	10,649,000	10,236,300	-412,700	
	(保存処理業務受託収入)	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	(普及啓発業務受託収入)	7,664,000	6,612,000	6,612,000	0	
	(センター維持修繕業務収入)	783,000	1,377,000	1,789,700	412,700	
	自主事業収入	0	0	5,020	5,020	
補助金収入	国庫補助金収入	3,400,000	3,400,000	3,400,000	0	
	地方公共団体補助金収入	800,000	800,000	800,000	0	
雑収入	雑収入	16,000	20,000	16,130	-3,870	
当期収入合計 A		1,124,036,000	1,133,513,000	1,133,514,139	1,139	
前期繰越収支差額		344,000	343,000	342,869	-131	
収入合計 B		1,124,380,000	1,133,856,000	1,133,857,008	1,008	

支出の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b-a)	備 考
大	中					
受託事業費支出	発掘調査費支出	995,937,000	1,010,210,000	1,010,209,987	-13	
	(国土交通省発掘調査費)	995,937,000	1,010,210,000	1,010,209,987	-13	
	センター管理業務費支出	11,243,000	10,649,000	10,236,300	-412,700	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	7,664,000	6,612,000	6,612,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	783,000	1,377,000	1,789,700	412,700	
	自主事業支出	0	0	5,020	5,020	
補助事業費支出	補助事業費支出	6,800,000	6,800,000	6,800,000	0	
管理費支出	総務費支出	207,000	212,000	212,650	650	
	管理費支出	98,185,000	94,432,000	94,431,753	-247	
当期支出合計 C		1,124,019,000	1,133,492,000	1,133,497,410	5,410	
当期収支差額 (A - C)		17,000	21,000	16,729	-4,271	
次期繰越収支差額 (B - C)		361,000	364,000	359,598	-4,402	

8 主な行事

【令和5年】

- 4月1日 辞令交付
 - 1日 臨時理事会（書面決議）
 - 4日 新職員研修
 - 7日 発掘業務委託業者説明会
 - 21日 企画展1「発掘された名前」開会 ～12月17日
 - 23日 第1回 講演会「企画展1の見どころ」
 - 26日 第1回 大人向け体験会「人面墨書土器を作ろう（1）」
- 5月11～12日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会
 - 14日 第2回 講演会「発掘された古代人名録（男性編）」
 - 23日 会計（監事）監査（令和4年度）
 - 28日 第3回 講演会「史跡斐太遺跡群釜蓋遺跡の発掘調査」
 - 30日 令和5年度第1回定例理事会
 - 31日 安全衛生委員会巡視①（村上市上野遺跡）
- 6月4日 第1回 まいぶん祭り
 - 7日 安全衛生委員会巡視②（上越市下割遺跡）
 - 15～16日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会
 - 19日 令和5年度定時評議員会
 - 21日 安全衛生委員会巡視③（南魚沼市六日町藤塚遺跡、同市金屋遺跡）
 - 25日 第4回 講演会「発掘された古代人名録（女性編）」
 - 30日 救命救急講習会
- 7月2日 第1回 キッズ考古学教室「縄文時代はどんな時代？－土器作り体験－」
 - 16日 第5回 講演会「はじめてのジェンダー考古学」
 - 28日 『埋文にいがた』121号 発行
 - 30日 第6回 講演会「小千谷の遺跡最前線！」
- 8月1日 第2回 キッズ考古学教室「遺跡に行こう！－発掘と石器作り体験－」
 - 6日 第7回 講演会「文字資料から見た越佐の地名」
 - 27日 第8回 講演会「発掘された中世文字資料から見たもの」
 - 31日 『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 令和4年度』発行
- 9月1日 ハラスメント研修
 - 6日 第2回 大人向け体験会「人面墨書土器を作ろう（2）」
 - 10日 第9回 講演会「古代の文字文化とジェンダー」
 - 23日 上越市下割遺跡現地説明会
 - 29日 消防訓練
 - 30日 村上市上野遺跡現地説明会
- 10月9日 第2回 まいぶん祭り
 - 15日 第3回 キッズ考古学教室「縄文人の技を体験しよう！－土器煮炊きと編み物体験－」

- 20日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック会議
- 25日 外部評価委員会
- 29日 第10回 講演会「新潟市内から発掘された名前」
- 11月1～2日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会
 - 3日 南魚沼市六日町藤塚遺跡、金屋遺跡現地説明会
 - 15日 第3回 大人向け体験会「土器の拓本をとろう」
 - 19日 第11回 講演会「長岡市内から発掘された名前」
 - 27～28日 埋蔵文化財保護対策五県協議会
 - 24日 『埋文にいがた』122号 発行
 - 30日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会
- 12月3日 第4回 キッズ考古学教室「学んだ成果を伝えよう！－まとめと作品展示－」
 - 4日 キッズ考古学教室展示会開催 ～1月28日
 - 15日 職場内巡視

【令和6年】

- 1月12日 企画展2「発掘！新潟の遺跡2023」開会 ～3月20日
 - 17日 第1回 発掘こぼれ話
 - 18日 メンタルヘルス研修
 - 29日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会デジタル研修
 - 30～2日 文化庁埋蔵文化財職員等講習会
- 2月14日 第2回 発掘こぼれ話
 - 15～16日 市町村等文化財専門職員研修
- 3月3日 第27回遺跡発掘調査報告会
 - 15日 『埋文にいがた』123号 発行
 - 22日 令和5年度第2回定例理事会
 - 26日 臨時評議員会（書面決議）

Ⅱ 発掘調査・整理事業

1 本発掘調査実績一覧

事業者	路線	遺跡名 (回数)	所在地	調査期間	面積㎡ (当初)	面積㎡ (実質)	主な時代	主な遺構・遺物	担当者	報告書 刊行予定	備考
新潟国道事務所	国道7号 朝日温海道路	上野遺跡 (第7次)	村上市猿沢・ 檜原	4/17～ 11/16	7,151	8,198	縄文	平地建物・掘立柱建物・竪穴建物・石囲炉・焼土(地床炉)・土坑・ピット・自然流路・焼人骨集積土坑・土器・土製品・石器・石製品	加藤 学	令和6年度以降	支援：国際文化財・吉田・帆苺特定共同企業体
国土交通省 長岡国道事務所	国道17号 六日町バイパス	余川中道遺跡 (第6次)	南魚沼市余川	6/26～ 9/19	1,356	745	古墳 古代 中世	【上層】竪穴状遺構・掘立柱建物・焼土・土坑・ピット・溝・性格不明遺構・自然流路、土器・陶磁器・古墳時代土器・管玉	石川 智紀	令和6年度以降	支援： (株)アコード
		六日町藤塚遺跡 (第7次)	南魚沼市余川	4/24～ 8/31	1,758	1,223	古墳 古代 中世	掘立柱建物・土坑・ピット・溝・土器集積遺構・須恵器・土師器・珠洲焼・青磁・白磁・石製品・金属製品	春日 真実	令和6年度以降	支援： (株)イビソク
	六日町藤塚遺跡 (第8次)	南魚沼市余川	5/8～ 11/27	2,936	3,147						
	国道253号 八箇峠道路	金屋遺跡 (第7次)	南魚沼市余川	5/8～ 7/19 8/31～ 12/8	2,556	1,888	古代	竪穴建物・掘立柱建物・柱穴列・井戸・土坑・土師器焼成遺構・焼成遺構・焼土・ピット・溝・性格不明遺構・自然流路、須恵器・土師器・金属製品・鉄滓・勾玉	石川 智紀	令和6年度以降	支援： (株)アコード
高田河川国道事務所	国道253号 上越三和道路	下割遺跡 (第11次)	上越市米岡・ 北田中	4/24～ 10/31	4,056	3,131	縄文 飛鳥 古代 中世	竪穴建物・掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・溝・畑作溝・水田遺構・縄文土器・土師器・須恵器・珠洲焼・土製品・石器・木製品	山崎 忠良	令和6年度以降	支援： (株)ノガミ
3事務所	4路線	6遺跡		合計面積	19,813	18,332					

2 本発掘調査遺跡位置図



3 本発掘調査

遺跡名	頁
上野遺跡 (第7次)	7
余川中道遺跡 (第6次)	9
六日町藤塚遺跡 (第7次)	11
六日町藤塚遺跡 (第8次)	11
金屋遺跡 (第7次)	13
下割遺跡 (第11次)	15

かみの 上野遺跡（第7次）

事業名：国道7号朝日温海道路

所在地：村上市猿沢・檜原

面積：8,198㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は三面川^{みおもてがわ}の支流・高根川^{たかねがわ}右岸の扇状地に立地し、遺跡中心部の現標高は約35～39mである。縄文時代後期前葉（約4,000年前）の大規模な集落遺跡で、これまでの調査では膨大な数量の遺構・遺物が検出されている。7回目となる令和5年度の調査では、居住域と廃棄域の調査を行い、集落の全体像がみえてきたことが特筆される。



● 調査区全景（南から）

■ 層序 堆積物は、西側の山地から流れ出た土石流堆積物である真砂土と、それが土壌化した層位の互層からなる。遺跡を検出した層位は、Ⅲa層・Ⅲb層・Ⅲc層・Ⅲd層に区分され、Ⅲb層・Ⅲd層の土壌化が顕著である。このうちⅢa層・Ⅲb層に特に多くの遺物が含まれ、これに伴う遺構が多数検出されている。なお、Ⅲd層から中期前葉の土器が出土したことから、炭化物を試料に年代測定を行ったところ、中期後半～後期初頭ころの年代が得られた。Ⅲa層～Ⅲd層の年代差は、現状においては、さほどないとみられる。

■ 遺構 居住域で検出した遺構は、過年度調査分を含め10,000基以上を数えるが、その大半は柱穴である。特に屋内炉を中心に配する平地建物の柱穴が多く、その配列を検討しながら調査を進め178棟を復元した。平地建物のほかにも掘立柱建物・竪穴建物・敷石建物など、多様な建物を検出しており、建物の総数は200棟以上を数える。平地建物・掘立柱建物は、一定の範囲で複数回、建て替えが行われたことが明らかとなり、中には6回の建て替えが認められた大型の掘立柱建物もあった。特定の範囲で建て替えが繰り返された結果、居住域に遺構が密集したと考えられる。また、大型の掘立柱建物や小型の竪穴建物が、平地建物より古い段階に位置づけられることが切り合い関係の把握から明らかになった。居住域の北東側では、多数の遺物が出土する廃棄域を検出した。居住域北側の低地では、遺構・遺物の分布が極端に希薄となり、ここが集落の外縁にあたと判断した。土石流の影響を受けやすい範囲にあたることから、積極的に利用しなかったとみられる。一方、ここでは似たサイズの扁平礫が5枚重ねられた遺構2基を検出



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「塩野町」平成15年発行・「村上」平成10年発行）

し、精巧なつくりの小さな注口土器が出土した。集落の境界で行われた儀礼行為を示す可能性がある。

第4次調査で発見した焼人骨集積土坑は、引き続き新潟医療福祉大学と連携して調査を進めた。その結果、遺体を他所で焼き、収骨した焼骨を意図的に配置しながら埋葬したことが明らかとなった。埋葬個体は7体以上認められ、焼かれた多遺体が再葬された土坑と評価できる。

■ 遺物 第7次調査では、整理箱438箱の遺物が出土した。土器は、縄文時代後期前葉の南三十稲場式が大半で、それより古い三十稲場式、新しい加曽利B式も出土したがわずかである。また、南東北、関東、信州などの特徴をもつ土器もあり、広域な交流があったことがうかがえる。石器は、石鏃・石錐・石匙・磨製石斧・石錘・石皿・磨石・凹石などが出土した。石鏃や石錐にみられたアスファルトの付着は顕著であり、その多用が特筆される。磨製石斧の素材には奥三面地域で産出する輝緑岩のほかに、糸魚川産の蛇紋岩や、北海道産のアオトラ石とみられる石材も認められた。

■ まとめ 7回の調査で検出した遺構・遺物の数量を踏まえると、縄文時代後期前葉の遺跡としては県内最大規模と考えられる。また、延長370mにも広がる遺跡範囲のうち、居住域は一部分に限定されることがわかった。特定の範囲に建物が繰り返し建てられた結果、居住域の遺構密度が極端に高くなったとみられる。なお、ここは土石流の直撃を回避できる範囲にあたり、そのような場所を選んで居住域が設置された可能性がある。

(加藤 学)



● 平地建物SI9561完掘（南西から）



● 廃棄域の調査状況（東から）



● 焼人骨集積土坑（西から）
外周を四肢骨で囲んでいる。



● 集落の外縁から出土した注口土器

よかわなかみち 余川中道遺跡（第6次）

事業名：国道17号六日町バイパス

所在地：南魚沼市余川

面積：745㎡

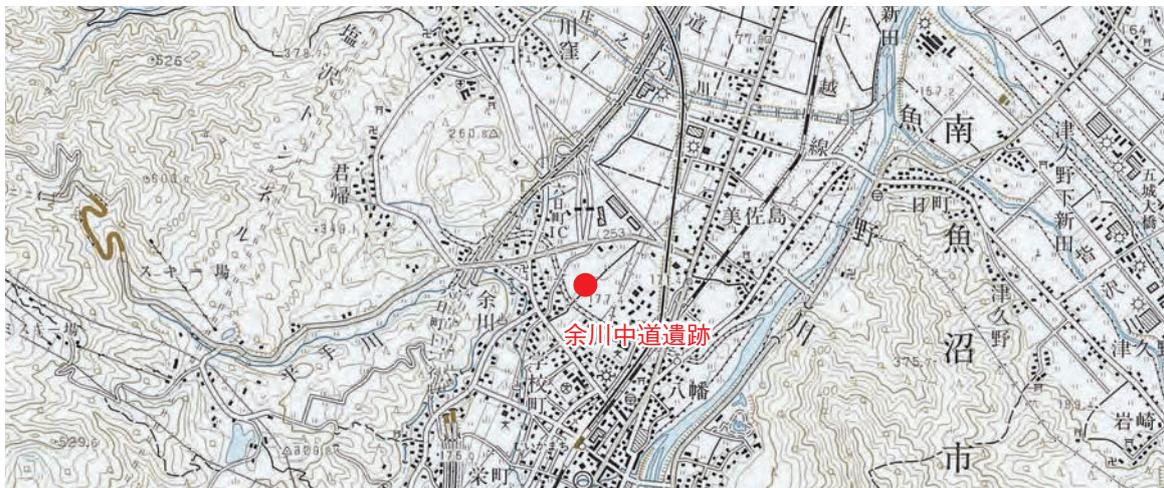
■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は南魚沼市余川^{よかわ}地内に所在し、魚野川^{うおのがわ}に注ぐ庄之又川^{しょうのまたがわ}の扇状地^{せんじょうち}扇端部に立地する。六日町バイパスに沿って約400mの長さに及ぶ大規模な遺跡で、古墳時代前期から室町時代まで、何度か地震や洪水の被害に遭いながらも断続的に人々が生活を営んできた痕跡が見つかっている。時代・時期のまとめりから、上層（平安時代・室町時代）、中層（古墳時代後期）、下層（古墳時代中期）の3面に大別され、特に古墳時代は、遺跡の南西側にある県指定史跡の飯綱山古墳群^{いづなやまこふんぐん}との関係性が注目される。



● 調査区全景（南から）

第6次調査区（L区）は、遺跡北東端に位置する。当初は上層のみが存在する範囲と考えられていたが、既往調査同様に下位に古墳時代の遺構・遺物を検出したことから、対象範囲を変更して調査した。また近接する六日町藤塚遺跡側（東側）に遺跡が伸びていることも確認した。

■ 層序 L区は既往調査区（A～K区）と距離が離れ、また扇状地上に立地する遺跡なので、堆積環境も大きく異なる。層序の対応関係の把握は困難なので、L区の層序はI～VII層に大別した。I層は近世以降の水田耕作土。II層は古代～中世の遺物包含層（上層）だが、下位層の古墳時代の遺物も多く含む。主に灰黄褐色～にぶい黄褐色シルトからなる。III層は褐色～灰黄褐色シルトを主とする。III層とV層の間をまとめてIV層とした。主にシルト～粘土質シルト層である。古墳時代後期の遺物が少量含むことから中層とした。V層は古墳時代中期の遺物包含層（下層）で、遺物を多く含む。主に黒褐色粘土質シルトで炭化物も多く、色調の濃淡で上下に分層が可能である。VI層は調査区北西で確認した遺物包含層で、遺構の一部の可能性もある。VII層は褐色～黄褐色のシルト～砂質シルト層からなるが、礫層も含む。古墳時代前期の層は確認できなかった。



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「十日町」平成20年発行）

■ **遺構** 上層では、竪穴状遺構1基、掘立柱建物2棟、土坑27基、溝・畑作溝24条、ピット・柱穴215基、自然流路2条などを検出した。深さが浅い遺構が多く、耕地整理などで表面がかなり削られた可能性がある。他の調査区と比べて遺構が密集していないので、古代・中世共に集落の縁辺付近の可能性はある。中層の遺構は検出できなかった。下層では、竪穴状遺構2基、掘立柱建物1棟、土坑4基、溝7条、ピット・柱穴94基などを検出した。また小規模だが土器の集中地点が1か所あり、祭祀の跡と考えられる「土器集積遺構」の可能性はある。竪穴状遺構は全形が不明で、建物かどうか検討が必要である。段差を持つものも認められた。掘立柱建物も同様に全形を把握できなかったが、地面から60cm以上掘り込まれている柱穴もあり、大型の建物に伴う可能性がある。下の写真の土坑は後世の土石流で削られているが、かなり大型のもので、底面付近から炭と一緒に多くの遺物が出土した。何らかの目的でまとめて廃棄した可能性がある。

■ **遺物** 上層の遺物は、須恵器の杯・長頸瓶、土師器片が少量出土した。また内外面に漆が付着した須恵器の杯が土石流内から出土した。下層の遺物は多く、土器類には杯・高杯・器台・壺・甕・鉢などがある。大半は破片だが、遺構内からまとまって出土したものもあり、今後の整理作業で詳細な時期が判明するものと思われる。他には石材の異なる管玉が2点出土した。1点は土器の集中する付近から出土したが、他には検出できなかった。

■ **まとめ** 第6次調査区（L区）は遺跡の北東端に位置し、同じく古墳時代・平安時代が主体の六日町^{むいかまち}藤塚遺跡^{ふじづか}が直近に存在する。調査成果を合わせることで、より当時の土地利用などの景観復元が可能になると考える。
(石川智紀)



● 上層 完掘（南東から）



● 下層 完掘（北東から）



● 下層 竪穴状遺構（東から）



● 下層 土坑（南東から）

むいかまちふじづか

六日町藤塚遺跡（第7次・第8次）

事業名：国道17号六日町バイパス

国道253号八箇峠道路

所在地：南魚沼市余川

面積：4,370㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は魚野川左岸の庄之又川によって形成された標高180mの扇状地に立地する。令和5年度の調査では古墳時代中期後半、古墳時代後期、平安時代、鎌倉時代の遺構・遺物を確認した。主体は6世紀後半の古墳後期前半と13世紀の鎌倉時代である。調査面積は国道17号六日町バイパス（第7次）が1,223㎡、国道253号八箇峠道路（第8次）が3,147㎡である。



● 調査区全景（南東から）

■ 第7次調査 基本層序は過去の調査でⅠ～ⅩⅢ層に大別しておりこれに準拠した。平安時代の遺構

は土坑4基、溝13条、ピット60基をⅢ層上面で確認した。古墳時代後期の遺構は土坑2基、焼土遺構1基、土器集積遺構3基、ピット83基をⅩ層中位とⅩ層上面で確認した。古墳時代中期の遺構は土器集積遺構1基をⅩⅢ層上面で検出した。出土遺物は土器類のみで土師器・黒色土器・須恵器がある。ⅩⅢ層上面で検出した土器集積遺構SX2943は須恵器甕の破片が集積したもので、1個体の甕に復元できた。

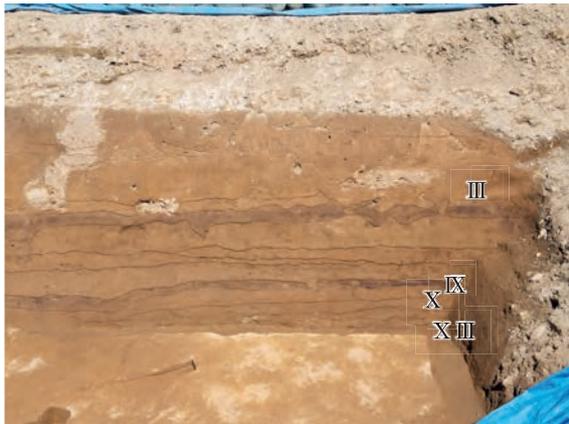
■ 第8次調査 調査区西側・南側では耕作土直下のⅤ層上面で畑作溝を検出した。出土遺物がわずかで年代は不明であるが、中世（以降）のものと考えている。調査区東側では、耕作土直下のⅤ層上面で溝と多数のピットを検出した。出土した中世の陶磁器はわずかだが、いずれも13世紀で時期的にまとまりが見られた。溝とピットの多くは鎌倉時代のものと考えている。6棟の掘立柱建物を復元した。最大のものはSB3465で、3×4間（6.8×7.6m）面積は約52㎡である。



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「十日町」平成20年発行）

■ **まとめ** 第7次調査ではSX2943から古墳時代中期後半（5世紀後半）の須恵器甕が出土した。製作技法や焼成・胎土などから大阪府堺市・和泉市周辺に存在した陶邑窯跡群で製作された甕の可能性が高い。5世紀にさかのぼる須恵器は越後では少なく、貴重な事例となる。

第8次調査では鎌倉時代の集落を検出した。中世の南魚沼市周辺は上田荘と呼ばれる荘園に属していた。市内には坂戸城跡など戦国期の著名な山城がいくつか存在するが、中世前期の集落の調査例はわずかである。鎌倉時代の遺構は次年度以降調査を行う地点に広がる可能性が高く、今後の調査により、南魚沼地域の中世前期の集落の一端が明らかになる可能性が高い。（春日真実）



● 第7次調査 基本層序（南東から）



● 第7次調査 土器集積遺構（SX2922、南から）



● 第7次調査 SX2943検出状況（北から）



● 第7次調査 SX2943から出土した須恵器甕



● 第8次調査 調査区東側のピット・溝（北西から）



● 第8次調査 珠洲焼片口鉢出土状況（北西から）

かなや 金屋遺跡（第7次）

事業名：国道253号八箇峠道路

所在地：南魚沼市余川

面積：1,888㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は南魚沼市余川^{みなみうおぬまし}市内に所在し、魚沼丘陵^{うおぬまきゅうりょう}東麓にある独立丘の蟻子山東側裾部に位置し、庄之又川^{しょうのまたがわ}によって形成された標高約192mの扇状地上^{せんじょうち}に立地する。金屋遺跡は大規模な遺跡で、既往の発掘調査により古墳時代、平安時代の集落が営まれていたことが明らかにされている。八箇峠道路に係る範囲では、平安時代の遺構・遺物が多く、遺構検出面が2面確認されている。年代は上層が9世紀末～10世紀後半、下層が8世紀末～9世紀と考えられ、第7次調査ではその下層の遺構・遺物が見つかった。



● 調査区全景（南から）

■ 層序 基本層序は既往調査で、Ⅰ～Ⅷ層に大別されている。Ⅵ層が古代の遺物包含層で、土質や色調で大きくⅥa層（上層）とⅥb層（下層）に分層され、さらに細別が可能である。第7次調査ではⅥa層対応層を捉えられず、Ⅵb層をⅥb1層（褐灰色シルト主体）、Ⅵb2層（黄褐色シルト主体）に細別した。遺物を多く含むのはⅥb1層で、Ⅵb2層上面で大半の遺構を検出した。埋土の識別が困難なものは、下位のⅥc層（黒褐色シルト）の上下面で最終確認を行った。

■ 遺構 第7次調査では、竪穴建物7棟（可能性を含めば10棟）、掘立柱建物3棟、井戸2基、土坑55基、土師器焼成遺構1基、焼成遺構1基、溝・畑作溝110条、ピット・柱穴627基、性格不明遺構18基、自然流路4条などを検出した。調査面積と比べて、竪穴建物が多い。調査区外や攪乱などで全形を把握できるものは少ないが、平面形状は方形に近いものが多く、一辺が4m前後と推定できる。灰白色系の土を入れて床面（貼床）としたものが多くあり、掘り込み後の底面の凹凸の解消を目的に、土の厚さを調整していた痕跡も認められた。カマドは南壁または西壁の隅寄りに付属するものが多く、煙道を含めた一部が



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「十日町」平成20年発行）

屋外へ出る形で造られている。

東北地方に多く認められる煙道を長く造る竪穴建物が1基、調査区北東で見つかった（下写真）。竪穴建物（SI4310）は調査区外にかかるが、竪穴本体の全体規模が約3.6m×3.1mと推定できる。深さは最大約60cm、床面規模が約3.3m×2.6mあり、貼床の堆積状況から建て替えた可能性が高い。貼床上面から掘り込んだ柱穴が数基見つかった。深さは浅いが、壁際寄りの柱穴は配置から建物に伴うもの可能性が高い。貼床面より上の埋土は礫を多く含み、自然堆積でなく、人為的に埋められた可能性がある。意図的に埋めた痕跡が観察できることは少なく、貴重である。カマドと煙道の残存状況は比較的良好で、袖石・支石・燃烧部などが明瞭に見つかった。燃烧部の焼土層中の白色微細物を分析したところ、鮭の骨の一部と同定された。煙道も新旧が確認でき、短い煙道が古く、長い煙道が新しい。他の竪穴建物をみると、溝が周囲に付随する建物、須恵器大甕が建物隅に置かれた建物、刀子・鉄滓が出土する建物など、多様な状況が確認できた。

金屋遺跡で初めて井戸が見つかった。埋土の堆積状況から素掘りの井戸の可能性が高い。土師器焼成遺構は、一辺1.3～1.4mの方形に近く、燃烧部の幅がやや狭くなる。南側の「奥壁」と呼ばれる部分は被熱で壁面が硬化していた。復元可能な焼き損じの土師器碗もいくつか残存する。他にも土器埋納遺構、須恵器甕の廃棄土坑など類例の少ない遺構も検出した。

■ 遺物 遺物は、須恵器・土師器・黒色土器・勾玉・刀子・鉄滓・羽口などが出土した。器類以外の遺物は非常に少ない。遺物の時期は9世紀前半（平安時代）が中心だが、8世紀末葉（奈良時代）にさかのぼるものもある。墨書土器や刻書土器は、現段階で2点のみである。メノウ製の勾玉が、平安時代の遺構から出土した。長3.2cm、幅1.9cmある。製作時期は不明だが、官衙や寺院関連以外の集落から出土することは非常に少なく、有力者の威信材であった可能性がある。

■ まとめ 魚野川流域で古代の竪穴建物の調査事例は少なく、その様相を把握できたことは重要な成果の一つである。既往調査で緑釉陶器、灰釉陶器、墨書土器、刻書土器、硯（転用硯含む）、腰帯具、馬具、鉄鏃といった遺物が出土し、また今回の勾玉の出土も合わせて、地域の有力者が関与した拠点的な集落遺跡であったと考えられる。



● 勾玉



● 竪穴建物（SI4310）全景（南西から）



● 土師器焼成遺構（北東から）

しもわり 下割遺跡（第11次）

事業名：国道253号上越三和道路

所在地：上越市米岡・北田中

面積：3,131㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸に所在し、標高約14mの沖積地に立地する。令和5年度の調査区は、延長約950mに及ぶ遺跡範囲の西側に当たる市道区と東側の東区に分かれる。市道区は5面、東区は1面調査を行った。



● 調査区全景（市道区、南から）

■ 層序 市道区ではI～X層に大別した。IV層で中世、Va層で平安時代、VIa層で飛鳥時代、X-1層・X-2層で縄文時代後期を検出した。なお、X層は現地表下約4mに埋没して

いるが、高田平野東部の丘陵から河川によって運搬された土砂が堆積した結果と考えられる。東区ではI～V層に大別した。江戸時代以降の水田耕作により、中世以降の遺包含層（Ⅲ層）は削平を受けた結果、表土直下のV層上面で中世の遺構面を検出した。

■ 遺構【市道区】IV層では中世の水田遺構を検出した。畦畔などの遺存状態は必ずしも良好ではなかったが、踏み抜き痕の粗密を確認した。Va層では平安時代の掘立柱建物と畑作溝を検出した。調査区が狭小なため、掘立柱建物の全容は把握できなかった。VI層では飛鳥時代の掘立柱建物・祭祀遺構を検出した。掘立柱建物は柱穴が貧弱で、1間（約2.6m）×1間（約2.4m）分を検出したが、調査区外に延伸する可能性もある。祭祀遺構は手づくね土器と土師器甕を意図的に配置した可能性があり、手づくね土器は正位で据えられていた。また、土師器と須恵器の甕、それぞれ一個体をまとめて配置した遺構も検出した。X-1層では縄文時代後期の竪穴建物、X-3層ではピットなどを検出した。竪穴建物は石囲炉を中心に、支柱穴を4基設け、その周囲に小柱穴を配置する構造で、平面形は直径4.5mの円形となる。出入口は小柱穴の間隔が広く、それと対応するように溝が検出された建物南東側と考えられる。

【東区】中世の掘立柱建物・井戸・溝などを検出した。掘立柱建物や井戸がコンパクトにまとまっており、集落は南側に延伸すると考えられる。



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「高田東部」平成19年発行）



● 竪穴建物の支柱穴・溝完掘状況（東から）



● 竪穴建物の支柱穴・小柱穴完掘状況（東から）

■ 遺物 【市道区】中世の遺物は、水田域という性格を反映してか、ほとんど出土していない。平安時代の遺物は9世紀後半ころの須恵器・土師器が土坑や畑作溝から出土した。灰や炭化米とともに土器が出土した土坑もあり、土師器の杯や甕、須恵器の瓶類などが確認できる。飛鳥時代の遺物は、祭祀に関連する手づくね土器や土師器甕、須恵器甕が少量出土している。縄文時代後期前葉の土器は堀之内2式併行の土器を中心に、後期初頭の三十稲場式などが出土した。石器では黒曜石の出土が目立つ。製品は少なく、剥片や石核が多い点が特徴的で、令和4年度の調査では黒曜石はほとんど出土していない。このほか、土製の耳飾などの装飾品も出土した。



● 竪穴建物の炉完掘状況（南から）

【東区】主に中世の井戸から珠洲焼や木製品・金属製品が出土している。中世以降の遺物包含層（Ⅲ層）が削平を受けているためか、遺物の出土は少ない。

■ まとめ 令和5年度の調査で特に注目されるのは、縄文時代後期の竪穴建物を検出したことである。高田平野丘陵部では集落や竪穴建物は検出されているが、低地部では初の発見である。丘陵部の遺跡と比較、検討することで、縄文人の生活や活動内容が、より具体的になることが期待される。（山崎忠良）



● 中世の井戸から出土した柄杓（南から）



● 縄文時代の黒曜石（石核）の出土状況（北西から）

4 整理・報告作業

整理作業は、当事業団で過年度調査の柏崎市丘江遺跡（第4・6・8～11次調査）を行い、令和4年度調査の上越市下割遺跡（第10次調査）とともに編集作業を（有）不二出版に委託した。ほかに令和4年度に報告書編集作業を完了した4冊の印刷・刊行を行った。デジタル図化編集及び印刷用PDFデータ作成を専門業者等に委託し、報告書印刷は印刷業者にPDFデータを受け渡すことで効率化を図っている。

丘江遺跡（柏崎市）：遺物の接合・復元・実測・トレース、遺構・遺物図版及び写真図版の作成、原稿執筆、編集を行った。遺物実測には3Dスキャナーを導入し、効率化を図った。報告書刊行は令和6年度の予定。

下割遺跡（上越市）：令和4年度に行っていた編集作業を継続し、印刷用PDFデータを作成、印刷・刊行した。

令和5年度刊行報告書

シリーズNo. 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	担当者
第294集 R5.07.28	山口遺跡Ⅲ 第4次調査 山口野中遺跡Ⅳ 第4・5次調査 境塚遺跡Ⅴ 第5次調査 新町遺跡Ⅱ 第2次調査 石船戸東遺跡Ⅱ 第3次調査 阿賀野市	A4版 310頁	国道49号 阿賀野 バイパス	R3	山口遺跡	散布地	縄文時代晩期	土坑1基	縄文土器	土橋由理子 (R4全委託) (株)吉田建設
						集落	弥生時代 前期～中期	土坑1基、ピット11基、性格 不明遺構1基、自然流路1条	弥生土器、土製品、焼成粘土塊、 石器	
						集落	古代 (9世紀前半)	堅穴建物2棟、土坑25基、 ピット172基、畦畔7条、性 格不明遺構5基	須恵器、土師器、黒色土器、木 製品、鍛冶関連遺物	
						集落	中世 (13世紀後半～ 15世紀)	掘立柱建物17棟、井戸14基、 土坑13基、溝43条、ピット 283基、性格不明遺構3基	土師質土器、瀬戸・美濃焼、青 磁、瓦器、瓷器系陶器、土器転 用研磨具、石製品、金属製品、 鍛冶関連遺物	
				R2・3	山口野中 遺跡	集落	中世 近世以降	土坑3基、溝13条		
						集落	古代 中世	堅穴状遺構1基、溝3条	須恵器、珠洲焼、縄文土器(撓乱)	
				R2	境塚遺跡	集落	縄文時代 晩期後葉	ピット1基		
						遺物包含地	古代	土坑1基	須恵器	
				R3	新町遺跡	集落	中世 (13世紀後半～ 14世紀前半)	溝3条、ピット4基	土師質土器	
						遺物包含地	縄文時代 後期中葉	土坑1基、ピット8基	縄文土器、石器	
				R3	石船戸東 遺跡	遺物包含地	中世 (15世紀後半～ 16世紀初頭)	井戸10基、土坑2基、溝8条、 ピット12基、道状遺構1条	珠洲焼、越前焼、瓷器系陶器、 瀬戸・美濃焼、青磁、鍛冶関連 遺物、古銭、木製品	
						遺物包含地	古代	土坑2基		
集落	中世 (13～16世紀)	土坑5基、溝1条、ピット3 基	珠洲焼、土師質土器							
R3	石船戸東 遺跡	集落	中世 近世	土坑3基、溝3条、ピット1 基						
		遺物包含地	古代	土坑2基						
		集落	中世 (13～16世紀)	土坑5基、溝1条、ピット3 基	珠洲焼、土師質土器					
第295集 R5.07.28	宮林B遺跡 湯沢町 ササラ西遺跡 長岡市	A4版 249頁	湯沢 待避所 川口 待避所	R3	宮林B遺跡	散布地	縄文時代 前期後葉		縄文土器、石器	飯坂盛泰
				R3	ササラ西 遺跡	散布地	縄文時代 後期後葉～ 晩期中葉	土坑2基、遺物集中5か所、 河川2条	縄文土器、土製品、石器	土橋由理子 (R4全委託) (株)大石組
第296集 R5.07.28	金屋遺跡Ⅳ 第4・5次調査 南魚沼市	A4版 206頁	国道253号 八箇峠道路	R2・3	金屋遺跡	集落	平安時代	土坑2基、耕作痕1か所、溝・ 河川6条、礫集中2か所、畦 畔1条、水田6面、杭列8条	貿易陶磁器、瀬戸・美濃焼、珠 洲焼、部材、杭、漆器、木製品、 金属製品、銭貨	春日真実
				集落	平安時代	堅穴建物1棟、掘立柱建物49 棟、柱穴列16条、溝67条、土 坑36基、性格不明遺構6基、 焼土遺構5基、ピット1688基	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰 釉陶器、腰帯具、鉄器(鉄製轡・ 鉄鎌・鎌・紡錘車・釘など)			
第297集 R5.07.28	石船戸東遺跡Ⅲ 第4次調査 蕪木遺跡Ⅱ 第3次調査 山口野中遺跡Ⅴ 第6次調査 阿賀野市	A4版 181頁	国道49号 阿賀野 バイパス	R4	石船戸東 遺跡	散布地	中世 近世	掘立柱建物6棟、井戸1基、 溝53条、土坑37基、ピット 308基、性格不明遺構1基	須恵器、土師質土器、珠洲焼、 青磁、白磁、砥石、曲物、紡錘 車、刀子	荒川隆史 (R4全委託) (株)ノガミ
					蕪木遺跡	集落	平安時代 中世 近世	掘立柱建物2棟、道1条、溝 25条、土坑14基、ピット77基、 流路2条、性格不明遺構1基	土師器、黒色土器、須恵器、灰 釉陶器、土師質土器、青磁、陶 磁器、釘、炉壁、板材、柱根	
					山口野中 遺跡	集落	中世 近世	溝6条、ピット1基		
第298集 R6.03.15	下割遺跡 第10次調査 上越市	A4版 208頁	国道253号 上越三和 道路	R4	下割遺跡	集落	縄文時代 後期前葉	ピット4基、遺物集中範囲2 か所	縄文土器、土製品、楔形石器、 磨製石斧、砥石、石皿、磨石類、 石冠	荒川隆史 加藤 学 (R5支援委託) (株)ノガミ
						集落	古墳時代 前期後半	土坑3基	土師器、軽石製研磨具	
						集落	飛鳥時代 (7世紀初頭 前半)	平地建物5棟、祭祀遺構3基、 溝2条、甕埋設遺構1基	須恵器、土師器、手捏ね土器、 支脚、白土	
						集落	平安時代 (9世紀後半)	掘立柱建物7棟、井戸1基、 土坑10基、溝92条	須恵器、土師器、黒色土器、灰 釉陶器、鉄滓、羽口、木製品 (箸、柱根など)、炭化米	
						集落	中世	水田19枚、畦畔16条、溝29条、 方形区画溝1基、掘立柱建物 1棟、井戸10基、土坑10基	青磁、珠洲焼、越中瀬戸焼、木 製品(漆器、曲物、折敷、柱根 など)、火打金、火打石、砥石	

5 保存処理

令和5年度は、担当職員1名と嘱託員5名で木製品・金属製品の保存処理を行った。

■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影

木製品は木製品保管棟等で水漬け保管しており、保存処理は報告書刊行順に掲載遺物を優先して実施している。遺物表面の泥汚れを水洗い後、長期間で染み込んだ鉄分などの汚れを落とすために薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、処理前の状態を写真に記録してから、トレハロース含浸処理を始める。

■ 木製品の保存処理（第1・2表）

乾燥による木材の収縮・変形を防止して強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を採用している。令和5年度は大型木製品の保存処理を行い、含浸期間を8か月とした。温度調整が可能な大型含浸槽（槽内長さ3.0m）2台と小型含浸槽（槽内長さ1.8m）1台で実施した。

大型木製品 大型含浸槽2台、小型含浸槽1台を1サイクルづつ稼働した。令和5年度は3遺跡294点（第1表）について、トレハロース含浸から結晶化（取出し乾燥）までの作業を実施した。前年の令和4年度に保存処理を実施した大型木製品11遺跡238点（第2表）は表面で結晶化したトレハロースをスチームクリーナーで溶かして拭い、しばらく乾燥させて保存処理を完了した。

■ 金属製品の保存処理（第3・4表）

金属製品はX線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行う。令和5年度は、鉄製品は8遺跡64点（第3表）、青銅製品は10遺跡225点（第4表）の保存処理を実施した。

第1表 木製品の保存処理

報告書No.	遺跡名	処理点数
1	219集 六反田南Ⅲ	23
2	228集 山岸	234
3	294集 新町Ⅱ	37
合 計		294

第2表 木製品の表面処理

報告書No.	遺跡名	処理点数
1	180集 中曽根Ⅱ	9
2	209集 前波南Ⅱ	34
3	210集 荒町南新田	25
4	211集 六反田南Ⅱ	28
5	212集 中田原Ⅱ	9
6	218集 下新保高田	33
7	219集 六反田南Ⅲ	28
8	221集 古渡路	8
9	223集 村前東A	8
10	294集 新町Ⅱ	11
11	295集 ササラ西	45
合 計		238

第3表 鉄製品の保存処理

報告書No.	遺跡名	処理点数
1	237集 柄目木Ⅱ	10
2	251集 清水田	6
3	253集 余川中道Ⅱ	5
4	253集 金屋Ⅲ	1
5	254集 箕輪Ⅱ	12
6	261集 六反田南Ⅴ	3
7	262集 境塚Ⅱ	20
8	263集 新町	7
合 計		64

第4表 青銅製品の保存処理

報告書No.	遺跡名	処理点数
1	140集 東原町	41
2	237集 柄目木Ⅱ	1
3	251集 清水田	109
4	252集 宝田	2
5	253集 余川中道Ⅱ	3
6	254集 箕輪Ⅱ	28
7	259集 小峯	8
8	261集 六反田南Ⅴ	4
9	262集 境塚Ⅱ	8
10	263集 新町	21
合 計		225

Ⅲ 普及啓発事業

1 現地説明会等

令和5年度現地説明会等

開催日	内 容	事業名	遺跡所在地	主な時代	会 場	参加人数
6月18日 (日)	上野遺跡焼人骨集積 土坑研究者向け公開	国道7号朝日温海道路	村上市	縄文	新潟医療福祉大学	26人
9月23日 (土・祝)	下割遺跡現地説明会	国道253号上越三和道路	上越市	縄文・中世	下割遺跡	142人
9月30日 (土)	上野遺跡現地説明会	国道7号朝日温海道路	村上市	縄文	上野遺跡	160人
11月3日 (金・祝)	金屋遺跡現地説明会	国道253号八箇峠道路	南魚沼市	古代	金屋遺跡	123人
11月3日 (金・祝)	六日町藤塚遺跡現地 説明会	国道17号六日町バイパス 国道253号八箇峠道路	南魚沼市	古墳・古代	六日町藤塚遺跡	106人
11月26日 (日)	上野遺跡焼人骨集積 土坑説明会	国道7号朝日温海道路	村上市	縄文	新潟医療福祉大学	105人
合 計						662人

2 企画展・常設展

企画展1「発掘された名前」

開催期間は令和5年4月21日（金）～12月17日（日）である。県内で出土した文字資料の中から「名前」に焦点を当てた。センター所蔵品の他、16の自治体・施設より借用した写真・遺物を展示した。会期中複数回の展示替えを行った。展示品総数254点、会期中の入館者12,254人。



「発掘された名前」展示の様子

企画展2「発掘！新潟の遺跡2023」

開催期間は令和6年1月12日（金）～3月20日（水・祝）である。令和5年度に調査・整理作業を行った村上市上野遺跡、柏崎市丘江遺跡、南魚沼市金屋遺跡・六日町藤塚遺跡・余川中道遺跡、上越市下割遺跡を展示した。展示品総数139点、会期中の入館者2,556人。



「発掘！新潟の遺跡2023」展示の様子

常設展

速報展示コーナーにおいて、南魚沼市六日町藤塚遺跡（古墳時代）、南魚沼市金屋遺跡（平安時代）を展示した。職場体験で来館した中学生がネームプレート作成や展示作業等を行った。その他、令和4年度に引き続き追加の展示ケースを3つ設け、校外学習の解説補助として火起こし・勾玉・実測用具をテーマとした展示を行った。



速報展示コーナー

3 発掘調査報告会・講演会

第27回遺跡発掘調査報告会

令和6年3月3日（日）に開催した。令和5年度調査成果報告として、村上市上野遺跡、南魚沼市六日

町藤塚遺跡、南魚沼市金屋遺跡、上越市下割遺跡の報告を行った。また、シンポジウム「柏崎市丘江遺跡の木製塔婆からみた中世の葬送」では、丘江遺跡の木製塔婆についての報告、水澤幸一氏（中世考古学研究者）講演「新潟県の板碑」、狭川真一氏（大阪大谷大学）講演「木製塔婆からみる中世の葬送墓制」、パネルディスカッションを実施した。会場参加者55人、オンライン配信申込者84人（県内45人、県外39人）。

■ 講演会、発掘こぼれ話

開催日、演題、参加人数（オンライン配信は申込者数）は以下の通り。

開催日	演題	会場	オンライン
4月23日（日）	企画展1の見どころ 佐藤友子（新潟県埋蔵文化財センター）	21	42
5月14日（日）	発掘された古代人名録（男性編） 小林昌二氏（新潟大学名誉教授）	47	61
5月28日（日）	史跡斐太遺跡群釜蓋遺跡の発掘調査 湯尾和広氏（上越市教育委員会）	33	55
6月25日（日）	発掘された古代人名録（女性編） 浅井勝利氏（新潟県立歴史博物館）	45	57
7月16日（日）	はじめてのジェンダー考古学 菱田淳子氏（兵庫県立考古博物館）	43	55
7月30日（日）	小千谷の遺跡最前線！～モノと地形から読み取る小千谷の特徴～ 白井雅明氏（小千谷市にぎわい交流課）	40	53
8月6日（日）	文字資料から見た越佐の地名 相澤 央氏（帝京大学）	47	44
8月27日（日）	発掘された中世文字資料から見えたもの 前嶋 敏氏（新潟県立歴史博物館）	34	49
9月10日（日）	古代の文字文化とジェンダー 三上喜孝氏（国立歴史民俗博物館）	37	50
10月29日（日）	新潟市内から発掘された名前 奈良佳子氏（新潟市文化財センター）	30	49
11月19日（日）	長岡市内から発掘された名前 丸山一昭氏（長岡市立科学博物館）	30	48
1月17日（水）	発掘こぼれ話 村上市上野遺跡と奥三面遺跡群 加藤 学（新潟県埋蔵文化財センター）	53	-
2月14日（水）	発掘こぼれ話 上越市飯田川左岸の古代遺跡－上越三和道路事業の調査成果を中心に－ 山崎忠良（新潟県埋蔵文化財センター）	29	-

4 校外学習・体験イベント等

■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

令和5年度に校外学習で来館した学校は40校2,700人、出前授業は9校496人、職場体験は2校7人（複数日来館含む）、合計51校3,203人であった。団体見学は12団体164人であった。校外学習の内容は、本物を用いた歴史学習、火起こし・勾玉作り・土器接合などの体験学習、展示見学・仕事見学である。

■ キッズ考古学教室

学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をととして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とした。全4回連続での参加を条件に募集し、小学4年生～中学1年生の14人が参加した。縄文時代についての解説、センター見学、土器作り、発掘体験、黒曜石の石器作り、注記、アンギン編み、まとめポスター作成、まとめ発表会などを行った。キッズ考古学教室展示会として、まとめポスターと作品を1Fエントランスに展示した（12月4日（月）～1月28日（日））。

■ 大人向け体験会

第1回（4月26日（水））、第2回（9月6日（水））では人面墨書土器を作成した。第1回は11人が参加し人面墨書土器の土器部分を作成した。第2回は10人が参加し自分が作成した土器に筆で人面を描き、鑑賞会・撮影会を行った。人面墨書土器は1Fエントランスに展示した（9月9日（土）～10月29日（日））。第3回（11月15日（水））は11人が参加し縄文土器の破片の拓本をとる体験を行った。

■ まいぶん祭り

第1回（6月4日（日））は勾玉づくり体験を実施し166人が参加。第2回（10月9日（月・祝））は勾

玉づくり、アンギン編み、クイズに答えてガチャ、縄文土器にさわろう、土器パズルを実施し合計284人が来場。

■ 県指定有形文化財「木崎山出土地鎮具」展示説明会

県文化課主催「にいがた秋の文化財一斉公開」（令和5年10月）と連携し実施した。10月8日（日）、22日（日）に全4回開催し、合計で21人が参加した。

5 広 報

■ 年 報

1年間の事業概要を総括したもので、8月31日に令和4年度版（A4版35頁）を刊行した。印刷物を30部作成するとともに、事業団ホームページに掲載した。

■ 埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報を中心とする広報誌で、7月・11月・3月に発行した。印刷部数は2,000部である。各刊行号とバックナンバーは事業団ホームページに掲載した。

号	発行年月日	調査・整理遺跡の紹介	そ の 他	県内の遺跡・遺物
121	令和5年7月28日	2023年度本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介 報告書刊行遺跡の紹介 金屋遺跡（南魚沼市）	企画展1「発掘された名前」 第2回まいぶん祭り ヒスイガイドブックの紹介 国・県指定等文化財一斉公開	
122	令和5年11月24日	上野遺跡（村上市） 丘江遺跡（柏崎市）	埋文コラム「幕島遺跡（燕市）」 企画展2「発掘！新潟の遺跡2023」 第27回遺跡発掘調査報告会	石船戸遺跡（阿賀野市）
123	令和6年3月15日	下割遺跡（上越市） 金屋遺跡、六日町藤塚遺跡（南魚沼市）	2024年度特別講演会	五千石遺跡（長岡市）

■ 年間パンフレット

埋蔵文化財センターが行う普及事業を紹介する令和5年度年間パンフレットを20,000部作成し、来館者や県内外の博物館等の施設に配付した。

■ ホームページ

埋蔵文化財センターホームページでは、施設紹介、展示案内、利用案内、催しもの案内、校外学習の案内等を掲載した。事業団ホームページでは、事業団の組織・業務の公開のほか、発掘調査状況、現地説明会の案内、資料室情報等を掲載した。令和5年度のアクセス数は28,541件であった。

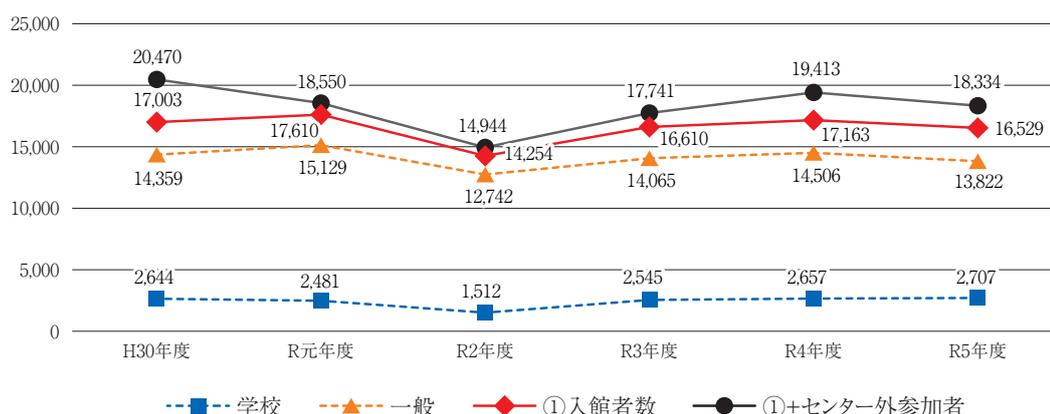
■ メールマガジン・SNS（Facebook・X（旧Twitter））・YouTube

メールマガジンは催しもの情報を随時配信した。SNSはこれに加え、展示品の紹介、発掘現場の様子などを随時配信した。メールマガジンは登録数29件（昨年度比-1）、Facebookはフォロワー数1,007件（+77）、Xはフォロワー数2,726件（+464）である。YouTubeチャンネルの登録者数は348人（+23）であり、令和5年度のライブ配信も含めた視聴回数は3,457回（-19,648）であった。

6 入館者数等

令和5年度の入館者数は16,529人（昨年度比-634）であった。出前授業・オンライン配信・現地説明会等のセンター外参加者を加えると18,334人（-1,079）であった。

入館者数等（令和6年3月31日現在）



7 出土品の管理

埋蔵文化財センターで保管する出土品や写真・図面等の貸出し、掲載、使用、閲覧の依頼に対し、許可及びこれに係る事務を行っている。令和5年度は企画展等への遺物の貸出し19件7,622点（うち長期貸出し7,280点）、書籍・放送等への写真等掲載および使用21件123点、遺物分析などの使用3件30点、遺物等の閲覧18件1,662点（未報告遺物資料10箱の閲覧を件数に含む）に対応した。詳細は新潟県文化課が発行する『令和5年度 新潟県文化財年報』に掲載される予定である。

8 図書

埋蔵文化財センターの資料室では、新潟県内を中心に全国の発掘調査報告書、考古学関係の雑誌など97,900冊余を所蔵し、開館日の平日にどなたでも閲覧することができる。事業団では、図書の受入れ・整理作業、閲覧・複写の対応などを行っている。令和5年度は8,434冊を受入れ、外部利用者は74人であった。新規受入図書一覧及び県内市町村別発掘調査報告書等目録は、事業団ホームページに掲載している。

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団資料室 蔵書・利用統計

蔵書統計

年 度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
新刊受入冊数	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361	2,250	2,220	2,300	2,770	2,220	8,434
累積冊数	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768	80,018	82,238	84,538	87,308	89,528	97,962

外部利用者数（※R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルス感染拡大防止の為センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	34	36	30	29	19	15	13	14	22	5	14
大学生・大学院生・大学関係者	23	6	13	10	17	8	10	9	10	11	9
小学生・中学生・高校生	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	2
教員	1	1	1	0	1	0	2	1	0	0	3
埋文関係民間企業	49	50	19	33	24	13	11	6	9	27	12
その他埋蔵文化財関係者	71	24	30	21	32	49	21	23	22	26	21
一般	19	25	25	18	6	16	19	39	36	24	13
合 計	197	142	118	111	99	101	79	93	99	93	74

外部利用者コピー機使用件数・枚数

（※R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルス感染拡大防止の為センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
コピー件数	107	90	53	67	49	38	43	39	53	37	35
コピー枚数	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177	2,369	2,110	1,511	2,465	1,531	1,520

Ⅳ 市町村及び関係機関等への協力

18団体の依頼で、埋蔵文化財の調査研究（専門研修会講師、調査指導・助言、委員会委員等）、普及（報告、講演等）に関連した事業に延べ21回の協力を行った。

	協力内容	協力先	期日	担当者
1	講演会「平安時代の柏崎と鉄生産」講師	柏崎市教育委員会博物館	令和5年5月14日	春日 真実
2	縄文～古墳時代のヒスイの指導	糸魚川市教育委員会	令和5年6月8日	荒川 隆史
3	茶院A遺跡出土の古代土器の年代と生産地についての指導	新潟市文化財センター	令和5年6月9日	春日 真実
4	第35回新潟県考古学会大会「上越市下割遺跡の調査」報告	新潟県考古学会	令和5年6月11日	加藤 学
5	科研費・基盤研究S「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」佐渡市蔵王遺跡出土木製品の調査	福島大学共生システム理工学類 教授 木村勝彦	令和5年6月20・21日	荒川 隆史
6	博物館講座「魚沼の歴史を学ぶ」講師	十日町市博物館	令和5年6月24日	春日 真実
7	神田原山窯跡出土土器指導	上越市教育委員会	令和5年7月4日	春日 真実
8	是川縄文館考古学講座講師	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	令和5年7月8日	荒川 隆史
9	科研費・基盤研究S「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」金沢市大友西遺跡出土木製品の調査	福島大学共生システム理工学類 教授 木村勝彦	令和5年7月19～21日	荒川 隆史
10	『季刊 考古学』第164号「最近の発掘から縄文時代後期の焼人骨集積土坑の調査－新潟県村上市上野遺跡－」原稿執筆	(株) 雄山閣	令和5年7月25日 刊行	加藤 学 石川 智紀
11	上野遺跡大学生インターンシップ	ドイツ・テュービンゲン大学同志社日本研究センター	令和5年7月31日	荒川 隆史 加藤 学
12	発酵微生物研究協力 上野遺跡・下割遺跡土壌採取	新潟県醸造試験場 佐藤圭吾	令和5年8月3日、 10月5日	荒川 隆史 加藤 学 山崎 忠良
13	「あさひ歴史講座 上野遺跡見学会」講師	朝日地区公民館運営協力委員会	令和5年9月30日	加藤 学
14	講座「深掘り！下割遺跡～上越三和道路の遺跡発掘調査を踏まえて～」講師	上越市諏訪地区公民館	令和5年10月8日	山崎 忠良
15	講座「信濃川流域の土偶と石棒をさぐる」講師	長岡市立科学博物館	令和5年10月15日	石川 智紀
16	公共工事に伴う大規模発掘調査事業に関する現地調査	長野県教育委員会事務局	令和5年10月17・18日	高橋 知浩 伊藤 雅美 荒川 隆史 加藤 学
17	上野遺跡見学・解説	中央大学大学院文学研究科日本史学専攻 小林謙一	令和5年11月17日	加藤 学
18	『木簡研究』45号「2022年度出土の木簡丘江遺跡(X)」原稿執筆	木簡学会	令和5年11月25日 刊行	土橋由理子
19	「令和5年度 いきいきセミナー 縄文の世界を探求せよ」講師	新潟市烏屋野地区公民館	令和5年11月29日	荒川 隆史
20	『季刊 考古学』第166号「最近の発掘から金箔が押された木製塔婆 新潟県柏崎市丘江遺跡」原稿執筆	(株) 雄山閣	令和6年2月1日 刊行	土橋由理子

本書は研究目的での全文複写を許可します

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報
令和5年度

印刷 2024（令和6）年8月30日

発行 2024（令和6）年8月31日

編集発行 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1
TEL 0250-25-3981

印刷・公開用データ編集
株式会社 ウィザップ
TEL 025-285-3311
